

## 2021 年度事業計画

現下のエネルギー情勢は、国内では、これまでの猛暑や豪雨に加え、昨年末から今年年初にかけての厳寒気象に伴うエネルギー供給への懸念など、供給システムのレジリエンス強化の必要性が改めてクローズアップされました。また、引き続き、少子高齢化に伴う人口減少が進み、エネルギー需要の減少傾向は継続するものと思われまます。

世界に目を転ずると、昨年来の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のまん延に伴い、社会経済活動は様々な制約を受けており、パンデミック収束後の社会の絵姿を見通すことができない状況となっております。こうした中、米国では新政権が欧州と協調した脱炭素化等の政策を明らかにしました。今秋、英国で開催予定の COP26（第 26 回気候変動枠組条約締約国会議）では、各国は将来に向けて、従来の枠組みを超えた大胆なエネルギー施策が求められるものと予想されます。

一方、COVID-19 は、各国の社会経済に中長期的な構造変容を生じさせ、エネルギーにおいても、生産から輸送、需要に至るまで広範囲な影響が生じており、今後の動向を注視する必要があります。また、昨年 10 月、菅総理は「2050 年カーボンニュートラル」を宣言し、EU や英国に続き日本も脱炭素社会の実現を公約しました。これを受けて、産業界は、この課題への取り組み強化を進めています。

以上の出来事は、クリーンエネルギーの追求、社会生活における IoT（モノのインターネット）や電化の進展策といった、エネルギーに携わる事業者が現在取り組んでいる諸課題を、さらに複雑かつチャレンジングなものにさせており、将来を見据え広い視野を持った施策が求められることとなりました。

本年度は、第 6 次エネルギー基本計画の策定が見込まれ、エネルギー政策面でも大きな節目の年となり、政府・民間ともにエネルギー情勢の大きな変革が始まることが予想されます。

日本動力協会といたしましては、中長期的な視野でエネルギーを取り巻く諸情勢の把握に努めるとともに、引き続き関連する情報の収集と、会員皆様への情報提供を行い、幅広い分野の業界に対するプラットフォームを設け、意思疎通を図っていきたいと考えております。

以上の認識の下、本年度は以下の事業を展開してまいります。

- ・重点事業：3年に一度開催の「エネルギーシンポジウム（一般公開）」を実施する。
- ・WEC 事業：カザフスタンで開催される執行理事会やアジア地域会議等に参加し、最新のエネルギートレンドの収集と我が国のエネルギー事情の発信に努める。
- ・国内事業：時宜を得たテーマにより、魅力的な講師を招き、「パワートーク」を引き続き開催する。
- ・事業運営：引き続き経費節減に努める一方、会員サービスの維持、質的向上を図る。また、移行法人としての円滑、適法な運営に努める。

なお、COVID-19 の収束時期が見通せないことから、個々の事業活動の実施時期や方法については、今後の状況を見ながら柔軟に対応してまいります。

## 1. 普及啓発事業

### (1) 機関誌発行事業

- ・「エネルギーと動力」を2刊（春季号：5月、秋季号：11月）発刊して配布する。
- ・企画審議するための編集委員会（2回）を開催する。

### (2) シンポジウム事業

- ・エネルギーシンポジウム

産業界、学界有識者によるエネルギーをテーマとしたパネルディスカッション方式のシンポジウムを開催する。

日時：本年度下期

場所：都内

## 2. WEC 事業

### (1) WEC 年間事業活動への参画

#### ① 執行理事会 (Executive Assembly) への参加

10月に、カザフスタン共和国において執行理事会の他、常設委員会、各地域会議、関連イベントが開催される予定であり、日本国内委員会議長を始め委員会委員および事務局が参加する。

日時：2021年10月4日（月）～8日（金）

場所：ヌルスルタン（カザフスタン共和国の首都）

#### ② WEC アジア地域会議

毎月開催される地域月例会議（Web）に参加するとともに、年2回開催されるアジア地域会議に参加する。同地域会議は、5月（場所未定）と10月のヌルスルタン執行理事会に合わせて開催される予定。

### (2) WEC 委員会への参加

2019年アブダビ大会において、以下の5つの旗艦スタディのとりまとめ結果が報告され、現在、継続実施中である。今後もこれらの活動に参加していく。なお、水素に関わるワーキンググループが新たに設置された。

WEC関係委員会や各旗艦スタディには、日本からも多くの委員が引き続き参加し、わが国のプレゼンスを高めていくこととする。

#### ① 世界のエネルギーシナリオ (World Energy Scenarios)

アブダビ大会において、2040年を視野に入れた3つの長期シナリオ、すなわち「モダンジャズ（市場が主導）」、「未完成シンフォニー（規制と国際協力が主導）」および「ハードロック（各国がバラバラに行動）」が報告された。

今後は、サントペテルブルク大会（2022年）でのシナリオ更新版の発表に向け、地域毎のシナリオ見直し等を行っていく。

なお、COVID-19の影響を踏まえ、昨年、2025年時点までの中期的な4つの予測シナリオが整理され、SNSを活用して情勢変化を随時フォローすることができる「エネルギー推移レーダー（World Energy Transition Rader）」がオンライン開設された。

② 世界のエネルギートリレンマ（World Energy Trilemma）

2008年、トリレンマ達成に向けた提言を行うとともに、エネルギー・気候変動政策に関する国別ランク付けを行うことを目的に開始した。

地域毎やクラスター（ASEAN諸国やG20諸国）毎の評価や時系列データを用いた改善度合評価等も可能となっており、今後は、各地域内の活動ツールの一つとして活用し、政策がカバーすべき領域の抽出等を行っていく。

③ 世界のエネルギー課題（World Issues Monitor）

2009年に開始。世界のエネルギーに関する課題項目について、1)影響度合い、2)不確実性、3)対応の緊急度の3つをそれぞれ評価（大、中、小の三択）するアンケートを実施し、国別／地域別／世界全体、業種別等のまとめを行うとともに、それらの時系列変化等を分析するもの。評価項目はそれぞれグラフ上のドット（円）で可視化され、一瞥して国別等の特徴が分かるように構成されている。

本年度も、引き続きアンケートの精度向上と回答への利便を図り、エネルギーの多岐にわたる分野から、より多くの回答を得ていくように努め、内外の活動に活用していく。

④ 強靱化への道（Dynamic Resilience Framework）

異常気象とサイバー攻撃の2つのリスクについて、その頻度や厳しさを推定するとともに、これらへの対応策と投資促進策について取りまとめられている。異常気象については、過去発生した異常気象による広域停電の13事例をケーススタディとして取りまとめ、Webサイトに掲載中。今後も随時追加していく。

⑤ 革新技术の将来見通し（Innovative Insights）

水素、ブロックチェーン、インフラ変革、エネルギー貯蔵等の革新技术について、将来の適用可能性等を評価。随時、報告書にまとめており、オンラインコンテンツ、ウェビナー等と組み合わせ、今後も情報を更新していく。

また、世界中のエネルギー関連スタートアップ企業支援を目的とした表彰システム（SET: Start-up Energy Transition Award）を運用してきており、今後もこれらを継続する。

(3) 会議の開催

- ・WEC 国内委員会の開催（日本動力協会定時総会と同時開催）

(4) 海外への情報発信

- ・WEC ウェブサイト上の「World Energy Inside」等へ、日本のエネルギー事情を随時発信していく。

3. 会員サービス事業

(1) 会員講演会およびパワートークの開催

- ・会員講演会は、これまで定時総会開催日に併せて実施してきたが、昨年度は COVID-19 の影響のため中止を余儀なくされた。今後の状況や総会との整合を踏まえ、時期、開催方法を別途検討する。
- ・時宜を得たテーマの「パワートーク」を 3～4 回開催する。

＜第 31 回パワートーク（予定）＞

日時 5月18日（火）

講師 東京大学 生産技術研究所 客員准教授 馬場 博幸 氏

場所 都内会場または Web 開催

(2) ニュースレターの発行

- ・会報「ニュースレター」を隔月発行する。

4. 会議他

(1) 会議の開催

- ・定時総会 1回：6月
- ・理事会 3回：5月、6月、3月
- ・運営評議員会 1回：3月

(2) 委員会の開催

- ・技術委員会 3回：7月、12月、3月
- ・編集委員会 2回：6月、11月

以 上

[補記] WEC World Energy Congress 開催予定

2022年10月 ロシア連邦 サンクトペテルブルク市

2025年 オランダ王国 ロッテルダム市